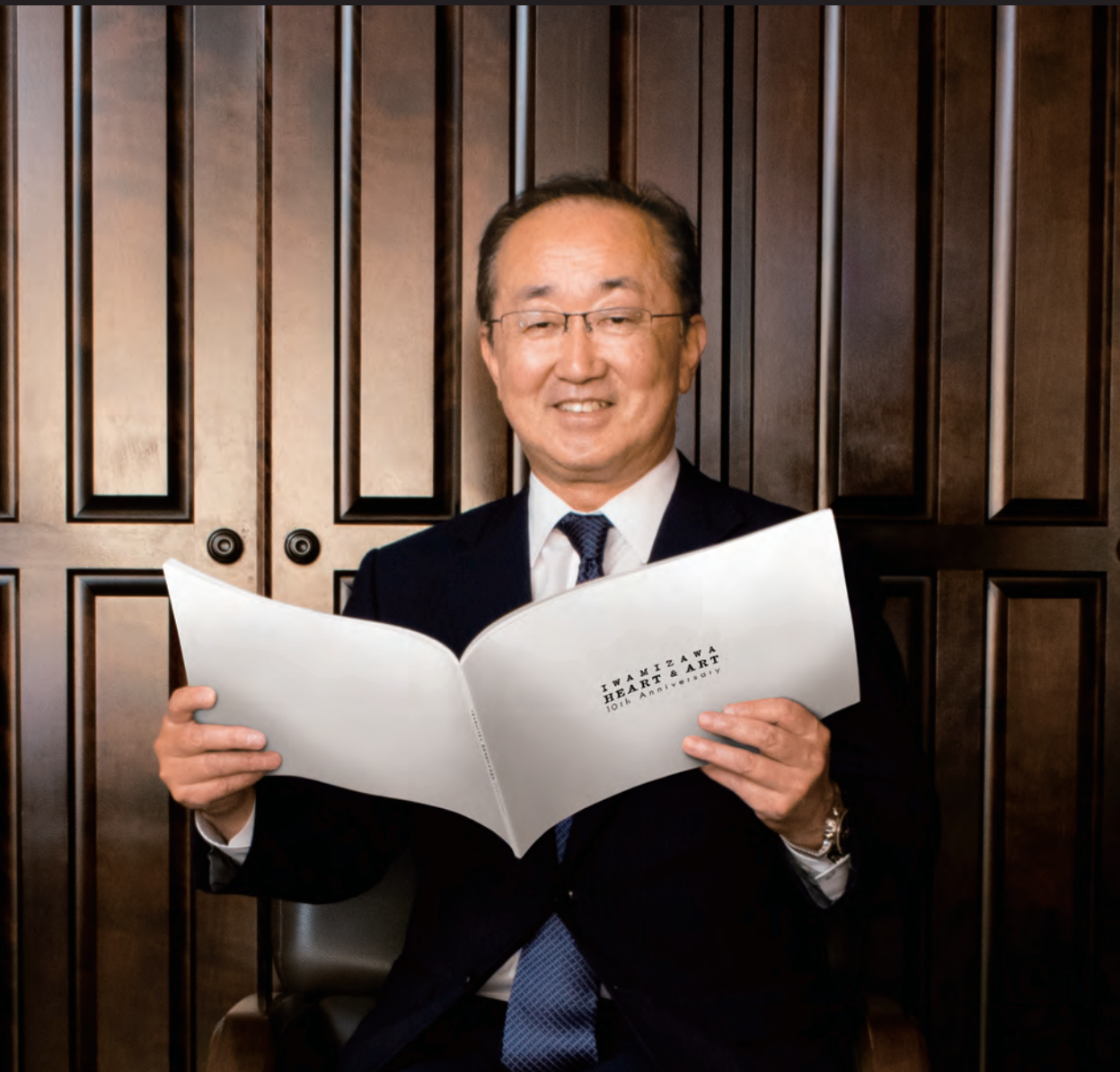


I W A M I Z A W A  
H E A R T & A R T  
10th Anniversary





## 「いわみざわハート&アート 10周年に寄せて」

いわみざわハート&アート 10周年を記念し、このように素敵な作品集ができあがりましたことを大変うれしく思っております。この作品集を彩る作品は、どれも心を込めて制作された素晴らしいものばかりです。是非、皆様のお気に入りの作品を見つけていただければと思います。

いわみざわハート&アートは、これまで人の目にふれることの少なかった障がいのある人のアート作品の魅力を発信することで、障がい者の自己表現や社会参加の機会を増やし、障がいのある人とない人との相互理解を深めることを目的に、平成22年から始めました。この間、岩見沢市では、多様な人々が社会の構成員としてお互いに支え合い、包み込むインクルーシブな社会を目指してきました。

日本で創作された障がいのある人の芸術作品「アール・ブリュット〜生(き)の芸術」は、フランスやスウェーデンなどの海外でも高い評価を受けており、独創的な作品たちは、世界でも輝きを放っています。

海外での衝撃が日本に伝わり、全国でアール・ブリュットが盛り上がるなか、岩見沢市でも、障がいのある人の芸術作品が公共施設や中心市街地を彩り、市民の目を楽しませてくれています。

障がいのある人が芸術活動を通じて社会に参加することができ、その人の生活が一層充実したものになるのであれば、これほど喜ばしいことはありません。障がいのある人とない人がともに理解し、支え合って暮らす共生社会の実現に向けて、芸術文化が果たす役割はとても大きいものだと考えています。

市では、これからも芸術文化によるまちづくりを進めていきますので、引き続き、皆様のお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

結びとなりますが、この作品集の発刊にあたり、中心となって準備をしていただいた実行委員の皆様、作品を出展していただいた多くの皆様に関心と感謝とお礼を申し上げます。

岩見沢市長 松野 哲



## 「作品との出会いに感謝」

彼は日常生活で言葉を発する事はなく、行動も何をするにもスローでマイペース。食事や移動は、他の人の倍は時間がかかる。嫌な事があった時や、自分の思い通りにならない時は挺でもその場から動こうとしない、そんな頑固な方でした。

午前中彼が陶芸の活動する場に現れるのは、みんなが一仕事を終え休憩している時、大好きなコーヒーもやっぱり飲まないと気が済まないので時間をかけてゆっくり飲み干す。

ようやく自分の作業台の前に座り、手ロクロに向き合う時には、他の人はお昼ご飯を食べに居なくなっている。私が「もうお昼だから戻ろうか」と声を掛けると、その場から頑として動こうとしない。気分が乗らないと、全く粘土にも触れず一日を終える事もある。

粘土を握りしめ、ゆっくりではあるが力強く、心の怒りをぶつけて行くが如く、指の先に力を込めてロクロに積み上げて行く。瞬く間に火柱のような形になっていき、それは彼の雄叫びなのか、生命力を感じる迫力ある造形がそこに生まれる。

それが30年前私とアールブリュットとの出会いでした。

岩見沢市がハート&アートを開催して早いもので、今年で10年という節目の年になり、記念誌まで発行して頂ける運びとなり、このうえない喜びを感じております。

最近では絵画や造形芸術に留まらず、舞台芸術など、障がいを抱えた方々の表現をする場が、わが町で徐々に増えていて、この活動を続けてきた意味がそこにあるように感じています。市、教育大学、福祉事業所が連携し芸術活動に積極的に協力しあえる環境が構築されつつある事は、本当に心強く感謝しかありません。

作家の中には、時に街で突然大声を出したり、スーパーの陳列にこだわったり困った行動をしてしまう人も居ます。なかなか理解してもらうのは難しい場面も多々あります。

でも彼らは、この街で精一杯表現するツールを通して我々に語りかけてくれます。怒っている、楽しんでいる、生きている。この作品集を通して少しでも皆様にそれが伝われば幸いです。

いわみざわハート&アート実行委員会実行委員長  
社会福祉法人北海道光生会サポートステーション・ステップ岩見沢

村林 太郎



## 「アール・ブリュットのこれから」

10年という月日が長いのか短いのか、人によって感じ方は違うかもしれませんが、ただ、その物事が充実しているときや楽しいとき、きっと誰もがその時間を、「あつという間」と感じるのではないのでしょうか。

ハート&アート展がこのまちで始まってから、多くの人に支えられ、あつという間にここまでくることができました。創成期を支えた「NPO 法人ふらっと」は残念ながら解散となりましたが、このアート展を続けたいと集まってくれた村林実行委員長をはじめとする実行委員の皆様、応援してくれている全ての方々に心から感謝いたします。

どんな時代であっても変わらず、人知れず表現を続けている人がいます。強い輪郭や強烈な色彩で表現されるモチーフ、ペンでひたすら描き込まれた細い線、思いがけない素材で作られる模型や人形など、好きな画材や素材を使って心のままに創りあげた作品は、その人そのものです。ときとして、絵画や陶芸といったジャンルを超越した作品に出会うこともあります。

福祉の現場においては、余暇活動の産物として保存の対象にもならなかった作品たちに注目が集まり、その人の表現として認められるようになってきたことは、この多様性の社会において大きな意義があると思います。まささらな気持ちになって作品を鑑賞し、その人の世界にお邪魔したとき、会ったこともない作者と言葉を交わしたような気持ちになるのは、きっとその作品に作家のメッセージがぎっしりと詰まっているからだと思います。

これからも、様々なところで作品が生み出されてくるでしょう。観た人をほっこりとさせる不思議な魅力に溢れた作品たちは、まちをも元気にする力があると思います。個性的な作品でまちが彩られ、障がいのある人もない人も作品を通じて心を通わせる、そんなまちの未来をアール・ブリュットは実現してくれると信じています。



岩見沢市健康福祉部福祉課障がい者芸術担当主査

山田 努

# INDEX \_ 目次

松野 哲	「いわみざわハート&アート 10周年に寄せて」
村林 太郎	「作品との出会いに感謝」
山田 努	「アール・ブリュットのこれから」

## 作品

01 神田 正和	__岩見沢市立総合病院デイケア	11 佐藤 亜莉紗	__空知の風
02 吉田 齊幸	__クピド・フェア	12 高橋 直樹	__福祉村
03 高橋 智	__サポートステーション・ステップ岩見沢	13 齊藤 真澄美	__クピド・フェア
04 小山 佳子	__空知の風	14 saco	__クピド・フェア
05 秋田谷 純一	__福祉村	15 高瀬 直樹	__美唄光生園
06 岸本 久美子	__クピド・フェア	16 古城 俊明	__クピド・フェア
07 河上 優矢	__空知の風	17 中野 孝司	__福祉村
08 前川 寛	__ライフサポート美唄	18 木元 麻衣子	__空知の風
09 曾場 久井	__クピド・フェア	19 横井 なおみ	__福祉村
10 坂本 千里	__福祉村	20 山田 保彰	__空知の風

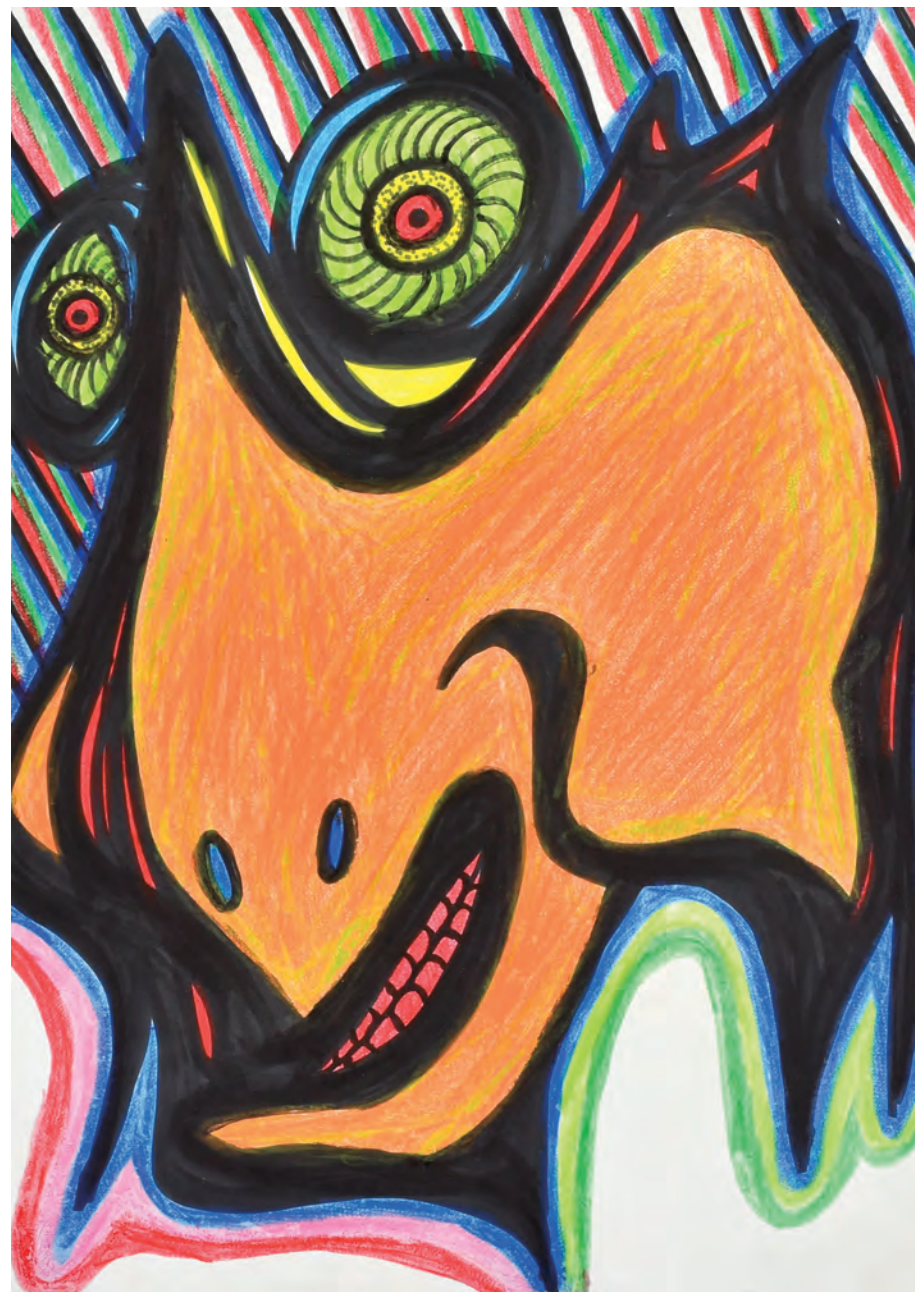
## 作品

- |           |                      |           |                      |
|-----------|----------------------|-----------|----------------------|
| 21 岡田 剛   | __福祉村                | 31 森本 篤史  | __福祉村                |
| 22 三島 裕介  | __サポートステーション・ステップ岩見沢 | 32 大巻 あさみ | __空知の風               |
| 23 南 陽子   | __福祉村                | 33 土門 恵美子 | __清丘園                |
| 24 峯 るみ子  | __クピド・フェア            | 34 西谷内 章  | __クピド・フェア            |
| 25 木村 将之  | __福祉村                | 35 牧野 葵   | __空知の風               |
| 26 中道 章子  | __福祉村                | 36 合同作品   | __にんじん               |
| 27 渡邊 準也  | __空知の風               | 37 柳瀬 典史  | __こくわの里              |
| 28 菊地 義則  | __サポートステーション・ステップ岩見沢 | 38 岡本 愛   | __クピド・フェア            |
| 29 島形 誠一  | __クピド・フェア            | 39 細川 敏明  | __福祉村                |
| 30 長谷川 康彦 | __クピド・フェア            | 40 鈴木 明夫  | __清丘園                |
|           |                      | 41 童子     | __サポートステーション・ステップ岩見沢 |

# KANDA MASAKAZU (01)

神田 正和 / 岩見沢市立総合病院デイケア

目に飛び込んでくるのは、黒く縁取られた線に、はっきりと濃く塗られた沢山の色。同じ色が隣り合うことなく配置されており、こだわりが見える。作者の熱意が表れており、みている者の目を覚ますような、生気に満ち溢れた作品だと感じた。(SASAKI)



(マジック・色鉛筆)





(マジック・色鉛筆)



(色鉛筆)



(マジック・色鉛筆)



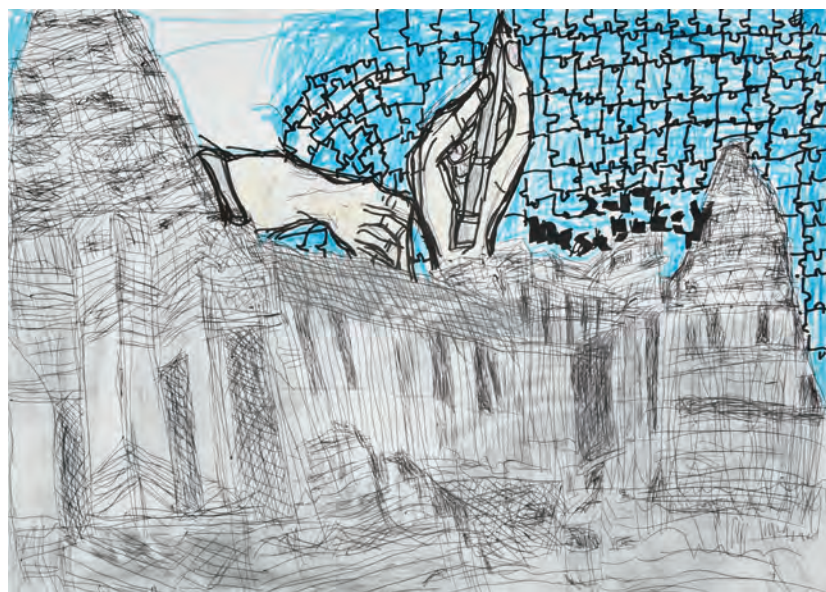
# YOSHIDA MASAYUKI (02)

吉田 斉幸 / クピド・フェア

みた瞬間から、作者の世界に引き込まれる。発想や構図、線の描き方、色の置き方など、すべてにこだわりが感じられる。特に青の使い方が爽やかで心地よい。作品をみていると、夢と現実の狭間にいるような感覚になった。(SASAKI)



夢の中では翔べない事実と  
見たことがない薔薇が咲いている (マーカー・色鉛筆)



モノクロに浮かぶ世界遺産 (ボールペン・マーカー・色鉛筆)



ジーゼル列車と才女 (マーカー・色鉛筆)





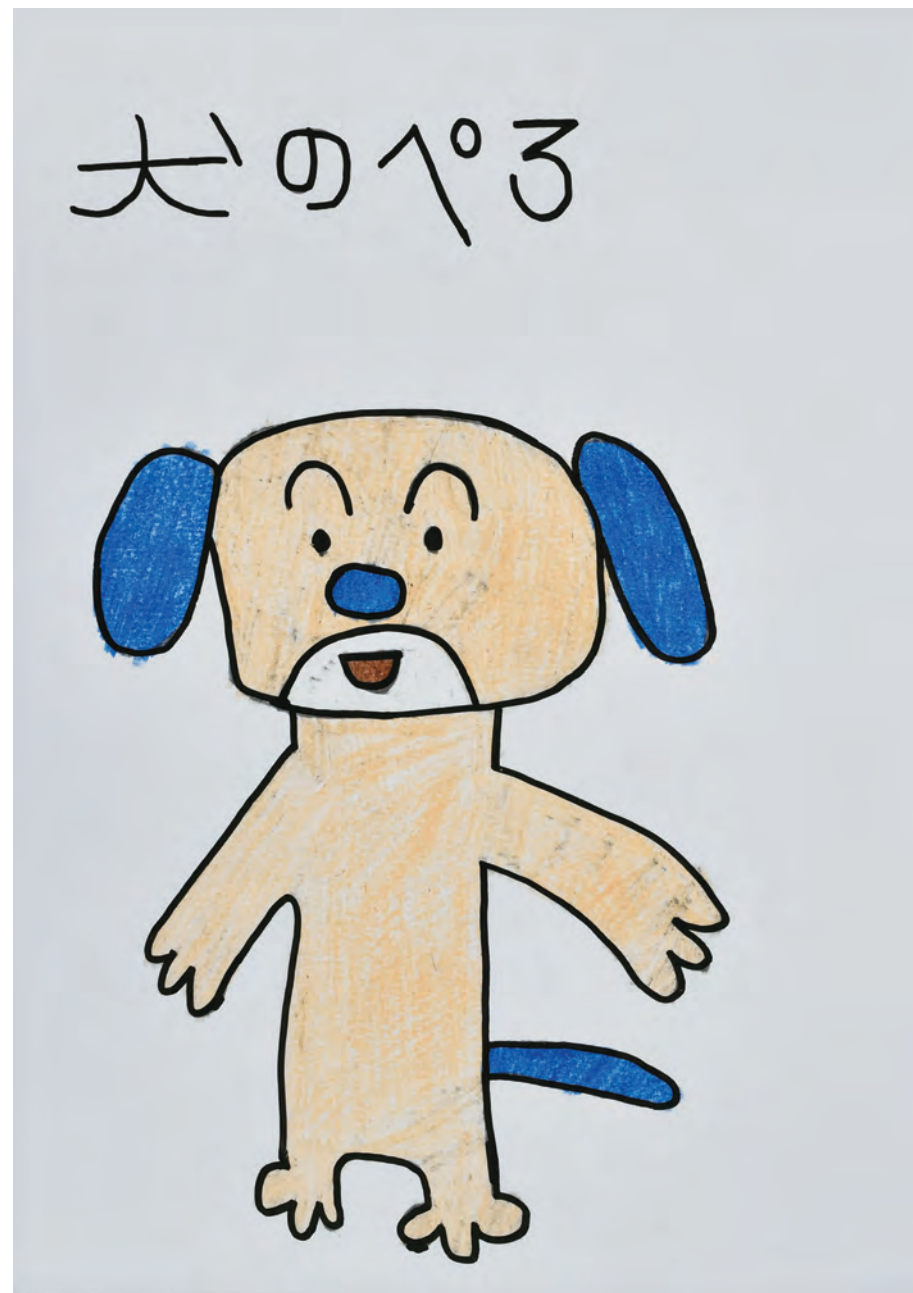
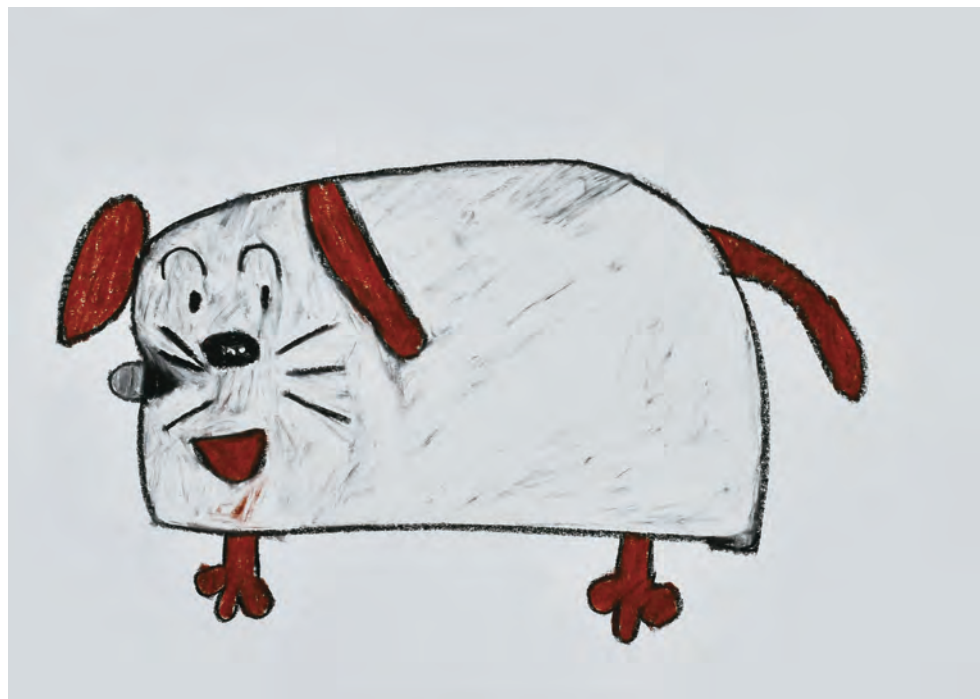
窓から海が見えたらいいね (マーカー・色鉛筆)



# TAKAHASHI SATORU (03)

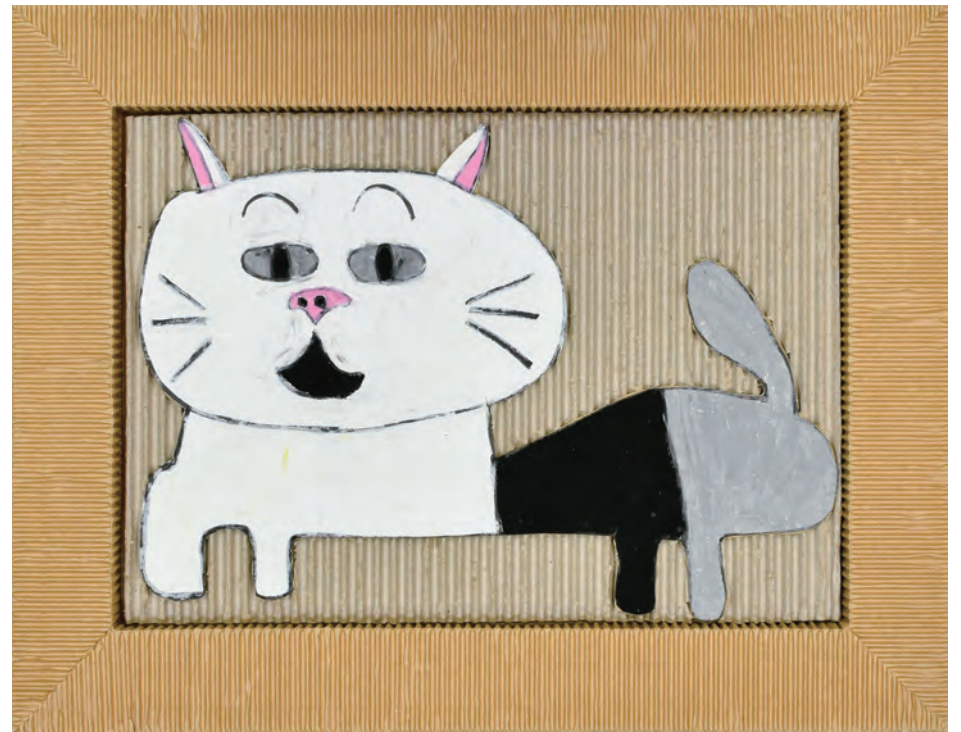
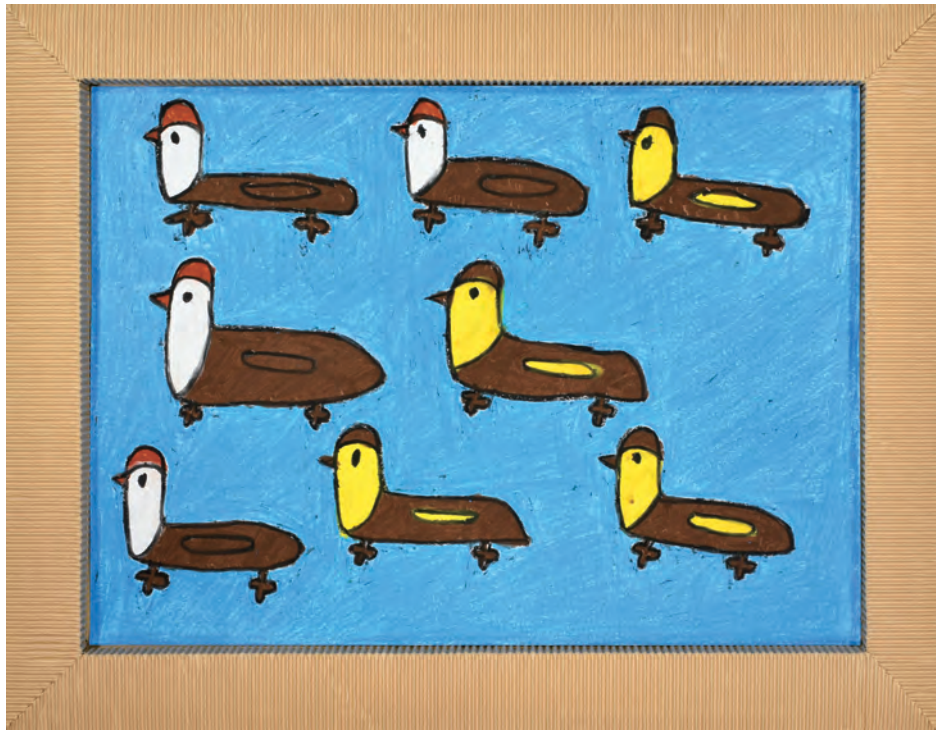
高橋 智 / サポートステーション・ステップ岩見沢

主に動物をモチーフにしており、黒で縁取りがされているイラストのような絵が特徴的である。楽しい動物たちはサインペンやクーピー、クレヨンでしっかりと力強く描かれ、二色以上を使って塗り分けられている。(SAWADA)



(サインペン・クーピー)





(サインペン・クーピー・クレヨン)



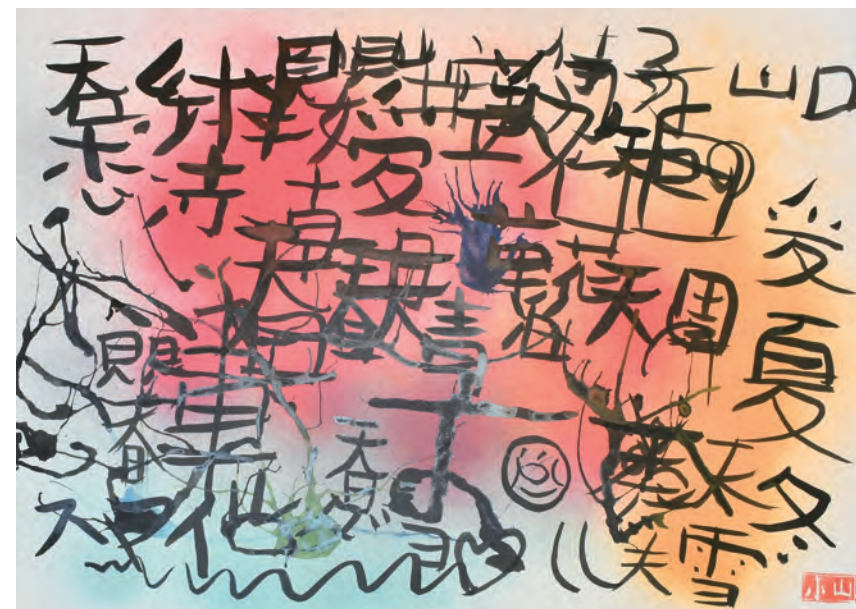
# KOYAMA YOSHIKO (04)

小山 佳子 / 空知の風

彼女は言葉を作品にする。言葉は諺のようで、とても意味が深い。表現は習字に似ているが、絵が加わることによってより一層言葉の面白さが引き立っている。忘れかけていた言葉の面白さに気づかされる。(NAGAI)



(絵の具)



(スプレー・すみ・絵の具)



(すみ・クレヨン)



## AKITAYA JUNICHI (05)

秋田谷 純一 / 福祉村

数多くの動物が描かれているところに注目だ。折り紙を切って貼る表現のため、使える色に限りがあるものの、それぞれの動物が鮮やかな色で描かれている作品となっている。背景が赤いことから、「この森の季節は秋なのだろうか」と想像を掻き立ててくれる。(FUJIMOTO)



(折り紙)

---

## KISIMOTO KUMIKO (06)

岸本 久美子 / クピド・フェア

やわらかいタッチで描かれたトラとパンダは、おだやかな笑みを浮かべている。大昔には、棲みかを追い、追われたライバル同士だった。「そんなこと、今はどうだっていいよ」と笑う、2匹の声が聞こえてくるようだ。(HARUKI)



トラとパンダ (色鉛筆)

# KAWAKAMI YUYA (07)

河上 優矢 / 空知の風

色鮮やかなガソリンスタンドを眺めていると、作家の配色のセンスにはたと気づかされる。車や建物は組み立て図を見ずに、一から作家の手で作られている。夢の世界に存在するようでいて、とても現実的な描写である。(NAGAI)



(画用紙・折り紙・空き箱・テープ・サインペン・チラシ)





(画用紙・折り紙・空き箱・テープ・サインペン・チラシ)



# MAEKAWA HIROSHI (08)

前川 寛 / ライフサポート美唄

沢山の絵を創り出していく日々の中で葦のように生え変わる色鉛筆の一本一本を、作者はこの20年間一度も絶やさずに紡いできた。交差する織り目にびっしりと敷き詰められた鮮やかな色彩は、思わず手にとってその質感を確かめたくなる。(ASANOME)



(色鉛筆)



## SOBA HISAI (09)

曾場 久井 / クピド・フェア

愛らしいパンダが画面いっぱいに色鉛筆のふんわりとしたタッチで描かれている。優しい色使いの線がいくつも重なることで、思わず触れてしまいたくなるような毛並みが見事に表現されている。抱きついたらそのまま眠ってしまいたい。(NAKAJIMA)



可愛いパンダ (色鉛筆)

## SAKAMOTO CHISATO (10)

坂本 千里 / 福祉村

ストーリーを感じさせる作品であり、動き出しそうなアヒルの姿に目を惹かれる。また、各所に折り紙以外の紙を使用し、表現の工夫が見られる。注目して欲しいポイントは、背景の山だ。作り込まれた山からは、緻密で丁寧な彼女の姿が思い浮かぶ。(FUJIMOTO)



(色画用紙・折り紙)

# SATO ARISA (11)

佐藤 亜莉紗 / 空知の風

新聞紙やチラシ、絵の具などの素材の特徴を上手くひきだして、独創的な作品を作っている。絵はのびのびと描かれているが、色の配色やキャップの模様、木の描き方には繊細で丁寧な仕事ぶりが感じられる。(NAGAI)



(新聞紙・チラシ・画用紙)





(絵の具)



(絵の具・段ボール)



(絵の具・キャップ)



# TAKAHASHI NAOKI (12)

高橋 直樹 / 福祉村

水彩ペンで描かれた繊細で温かく、カラフルな作品は見た人を不思議な世界に連れて行ってくれる。ピンクや赤、青など様々な色を使っているのに全体としてまとまりがある、とても不思議で素敵な作品だ。(SHIRATANI)



(水性ペン)



## SAITO MASUMI (13)

齊藤 真澄美 / クピド・フェア

キラキラと瞳を輝かせて楽しそうだ。ここはだれも知らない、とっておきの場所なのだろうか。水色の空の下、おいしそうな木の実を摘んで野原をかけた思い出。

宝物はきっと、ふたりの心の中に。(HARUKI)



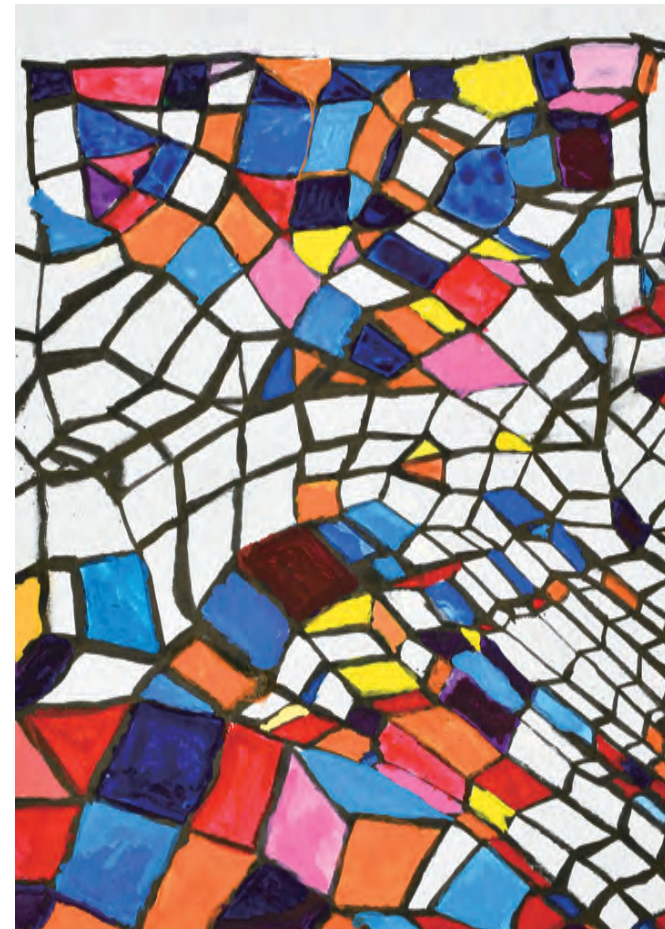
ミケの宝物 (水彩絵の具)

## saco (14)

saco/ クピド・フェア

ステンドグラスのような荘厳な美しさを感じる一方で、明るい色使いがやんちゃでポップな印象を与える。平面に見えたり立体に見えたり、角度を変えて見てみると、先ほどまでとは違う表情に出会えるのが楽しい。

(NAKAJIMA)



私から私の今、現在たった4人しかいないかぞくのみ～んなへの想い、きもちをまとめたらこうなった (水彩絵の具・筆ペン)



# TAKASE NAOKI (15)

高瀬 直樹 / 美唄光生園

表情豊かなキャラクターが画面いっぱいにならんでいる。何度も登場するキャラクターに関しては手が覚えているに違いない。服装も毎回異なった配色にしたりとコーディネートに抜かりのないところがさらに魅力的だ。(ASANOME)



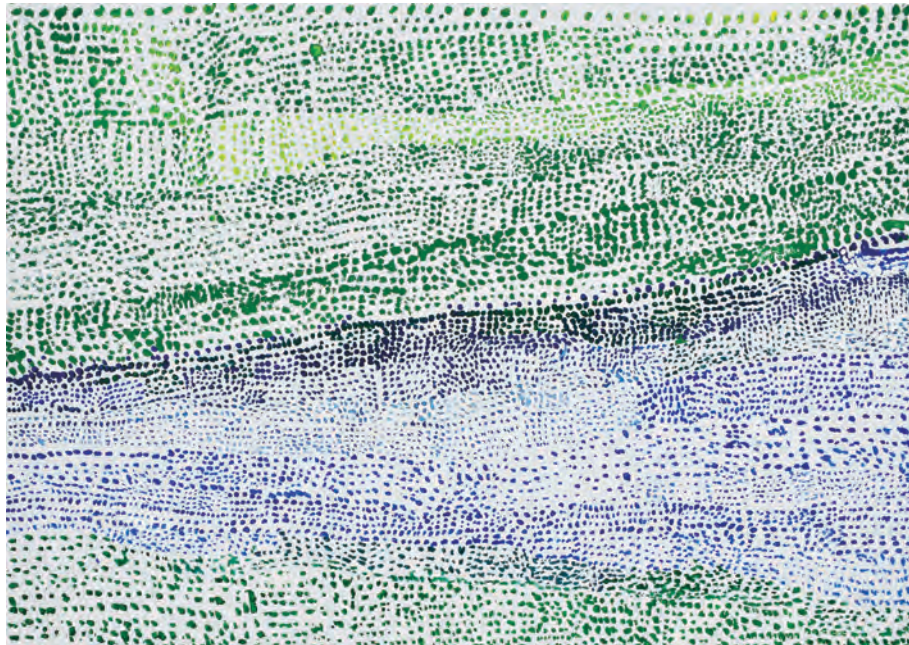
(色鉛筆)



# KOGI TOSHIAKI (16)

古城 俊明 / クピド・フェア

丁寧で繊細だが、トントンとリズム感じる筆づかいと、画面上に置かれた色のバランスの良さが印象的だ。作品によって点の密度を変えており、同じ点でも大きく印象が違う。みる者に多くのイメージを抱かせる、とても見応えのある作品だと感じた。(SASAKI)



青と緑の点 (水彩絵の具)



点点点点 (水彩絵の具)



# NAKANO KOJI (17)

中野 孝司 / 福祉村

積み木のような色合いの千切り紙細工はとても細かい作業によってつくられている。どの作品をみても、一つ一つの仕事がとても細かく丁寧で素晴らしい。現代の山下清と言っても過言ではない。(SHIRATANI)



(折り紙)



# KIMOTO MAIKO (18)

木元 麻衣子 / 空知の風

たくさんの小さな生き物たちが画面いっぱいに描かれていてとてもキュートな印象でした。マスコットのようにかわいい生き物たちも一種類だけかと思いきや目を凝らしてみるとさまざまな生き物が描かれていて見ていて楽しくなりました。(KANEHIRA)



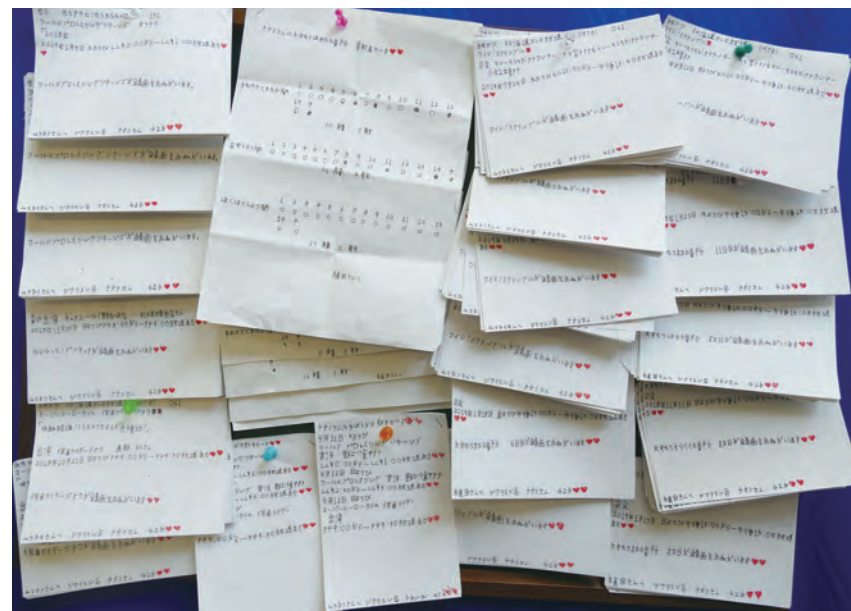
(サインペン・色鉛筆)

---

# YOKOI NAOMI (19)

横井 なおみ / 福祉村

日頃の番組を誰かに伝える為に書き留めておくことは、単に見逃しがメモの見返しに変わっただけでなく、待ち遠しさを募らせてとびっきりの楽しみにするための大切な習慣なんだと教えてくれた。(ASANOME)



(紙・ボールペン)

# YAMADA YASUAKI (20)

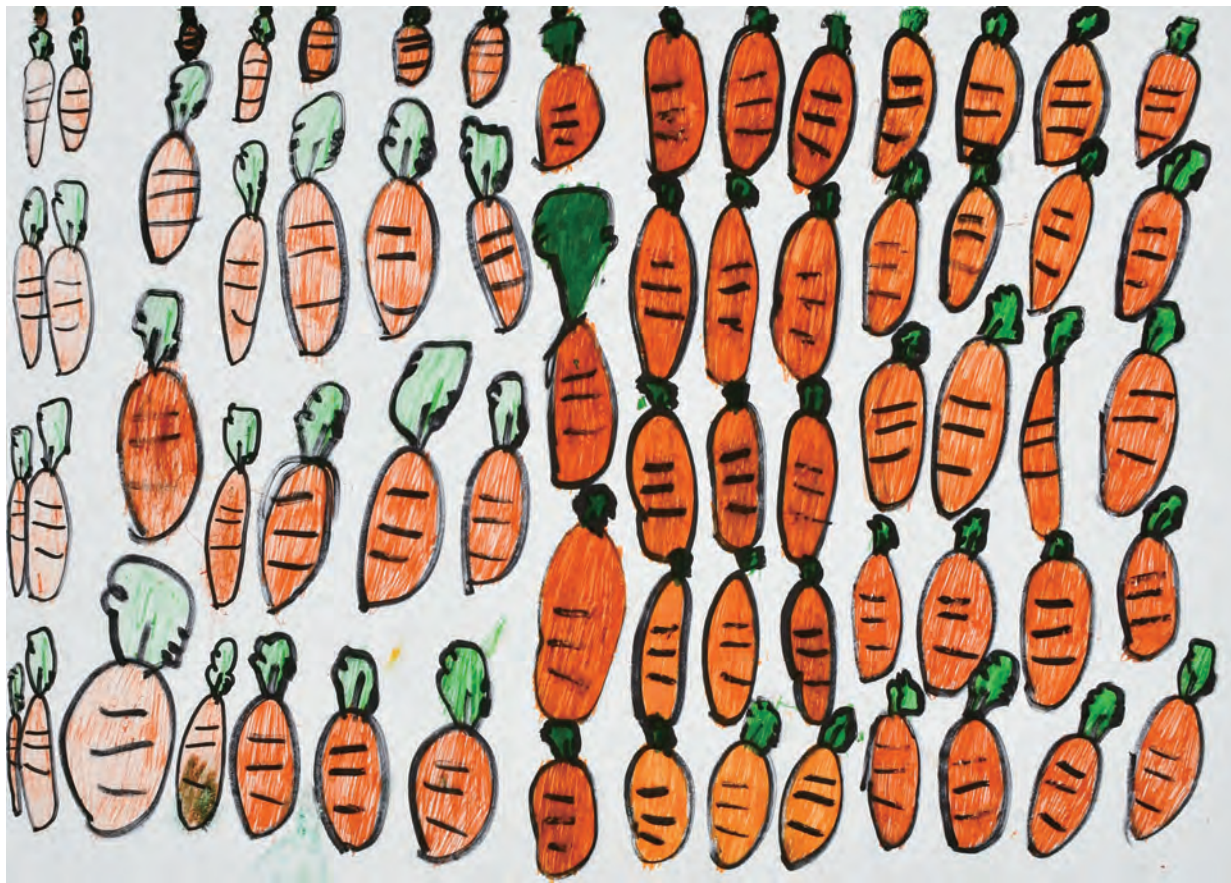
山田 保彰 / 空知の風

同じものがいくつも描かれ、面白い光景を作り出している。普段見慣れている食べ物が無数にあるのを見ていると、そのものが持つ色や形の面白さに気づかされる。集合が作り出す賑やかさや楽しさがひしひしと伝わる。  
(NAGAI)



(サインペン)





(サインペン)



(サインペン)



(サインペン)



(ボールペン)



# OKADA TSUYOSHI (21)

岡田 剛 / 福祉村

躍動感のある筆使いが満遍なく画面を覆い尽くしている。作者によって分け与えられた色とりどりの体は、自由だけを知っている。(ASANOME)



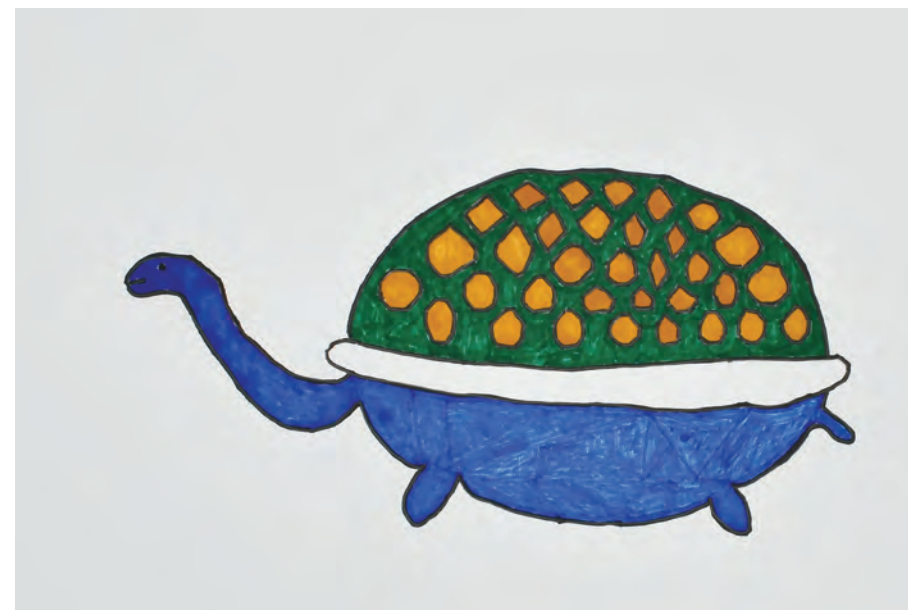
(色鉛筆・シルキータッチ)



## MISHIMA YUSUKE (22)

三島 裕介 / サポートステーション・ステップ岩見沢

黒のサインペンでしっかりと縁取りされていて、その輪郭をはみ出さないように丁寧に色が塗られている。甲羅のようなものがあるこの生き物はひとりぼっちではあるが、ひたむきに努力を重ね、地道に一步一步進んできたという力強さを感じる。(SAWADA)



(サインペン・ポスターカラー)

---

## MINAMI YOKO (23)

南 陽子 / 福祉村

この作品は色のバランスが心地よい。ピンクや水色を用いることにより、優しい印象を受ける。また、毛糸の先をダンボールに掛ける表現から躍動感を感じる。使われている素材からもわかるように、彼女は毛糸を触ることが好きなのであろう。(FUJIMOTO)



(毛糸)

# MINE RUMIKO (24)

峯 るみ子 / クピド・フェア

大胆な構図でモチーフを大きく見せているようでありながら、実は一つ一つディテールにこだわって繊細に描いている。描かれている全ての物が主役なのかもしれない。黒目の印象的な瞳が、どこかで出会ったような懐かしさを感じさせる。(HARUKI)



愛と青春の置時計 (水彩絵の具・色鉛筆)



IZUMI (色鉛筆)





駅舎の情景 (ボールペン・色鉛筆)



# KIMURA MASAYUKI (25)

木村 将之 / 福祉村

カラフルでパワフル。たくさんの生き物を色鉛筆を使って力強く描いている。不思議な色合いと、かわいらしい動物たち。ゆったりと布団の中に沈んでいくような安心する夢を見たような気持ちにさせてくれる。

(SHIRATANI)



(色鉛筆)



# NAKAMICHI SHOKO (26)

中道 章子 / 福祉村

ビーズで彩られたガーリーでとてもかわいらしい作品たち。フェルトを縫い合わせ、たくさんのビーズをつけたこれらの作品は、とても時間がかかっているだろう。かわいいの裏側には、大変な努力を要することを教えてくれる、そんな作品。(SHIRATANI)



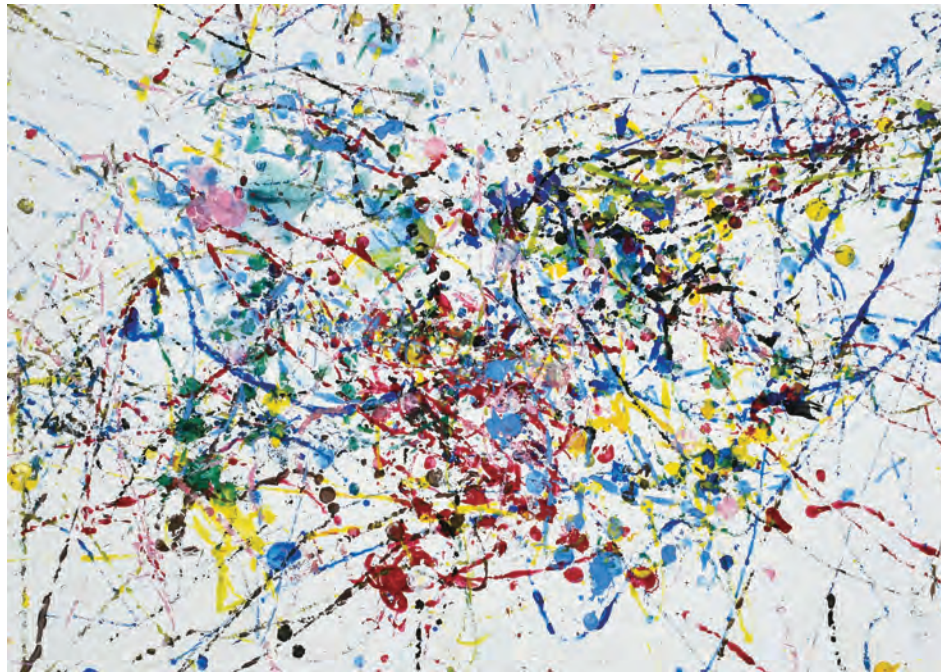
(ビーズ・フェルト)



# WATANABE JUNYA (27)

渡邊 準也 / 空知の風

打ちつけられた絵の具の線が飛び交う。色彩は四方八方できらめき、激しい争いを繰り広げる。色彩は混ざり合うことなく互いに主張し合う。新時代のエッセンスが加わったモダンで技巧的な作品だ。  
(NAGAI)



(絵の具・スーパーボール)



(絵の具・ストロー)



## KIKUCHI YOSHINORI (28)

菊地 義則 / サポートステーション・ステップ岩見沢

鉛筆で下書きがされていて、何度も描き直した部分も見られる。下書きで一度完成されたものに、色を加えていき、目立たせたい部分や境目の部分にはサインペンを使って付け足し、計画的に描き進められているような印象を受ける。(SAWADA)



(サインペン・クレヨン)

---

## SHIMAGATA SEIICHI (29)

島形 誠一 / クピド・フェア

自然のおいが感じられそうな緑と青。深い緑、薄い緑を巧みに使い分け葉のような質感を表現している。

青く塗られた物体の赤い斑点がぬらりとした皮膚を思わせ、その迫力に思わず圧倒されてしまう。(NAKAJIMA)



両生類 (色鉛筆)

# HASEGAWA YASUHIKO (30)

長谷川 康彦 / クピド・フェア

夢の中に迷い込んだような、幻想的な色づかい。描かれた動物たちの瞳に見つめられると、まるで心を見透かされたようにドキッとする。儚げな雰囲気一方で、なにかを訴えかけてくるような意思の強さを感じる。(HARUKI)



ぞう（色鉛筆）





猫（色鉛筆）



ねこ（色鉛筆）



さる（色鉛筆）



# MORIMOTO ATSUSHI (31)

森本 篤史 / 福祉村

「水着美人」という題名の作品。色鉛筆で描かれたやさしいタッチの女性には母性を感じる。かわいらしいイヤリングや、おしゃれな水着の模様などにも作者のこだわりが伝わる、やさしい絵だと思う。(SHIRATANI)



(色鉛筆)



## OMAKI ASAMI (32)

大巻 あさみ / 空知の風

材料の卵の殻がまるでタイルのように一枚一枚輝いていて描かれている風景の空気感も感じられます。画面全体の朗らかな雰囲気が見ていて心が安らぐように感じました。(KANEHIRA)



(タマゴのカラ・絵の具)

---

## DOMON EMIKO (33)

土門 恵美子 / 清丘園

黄色で周りが縁取られている為、画面全体が華やかに見えます。また、画面左上の帽子のようなものの青が塗り重ねられていて、青がより深く感じられる気がします。(KANEHIRA)



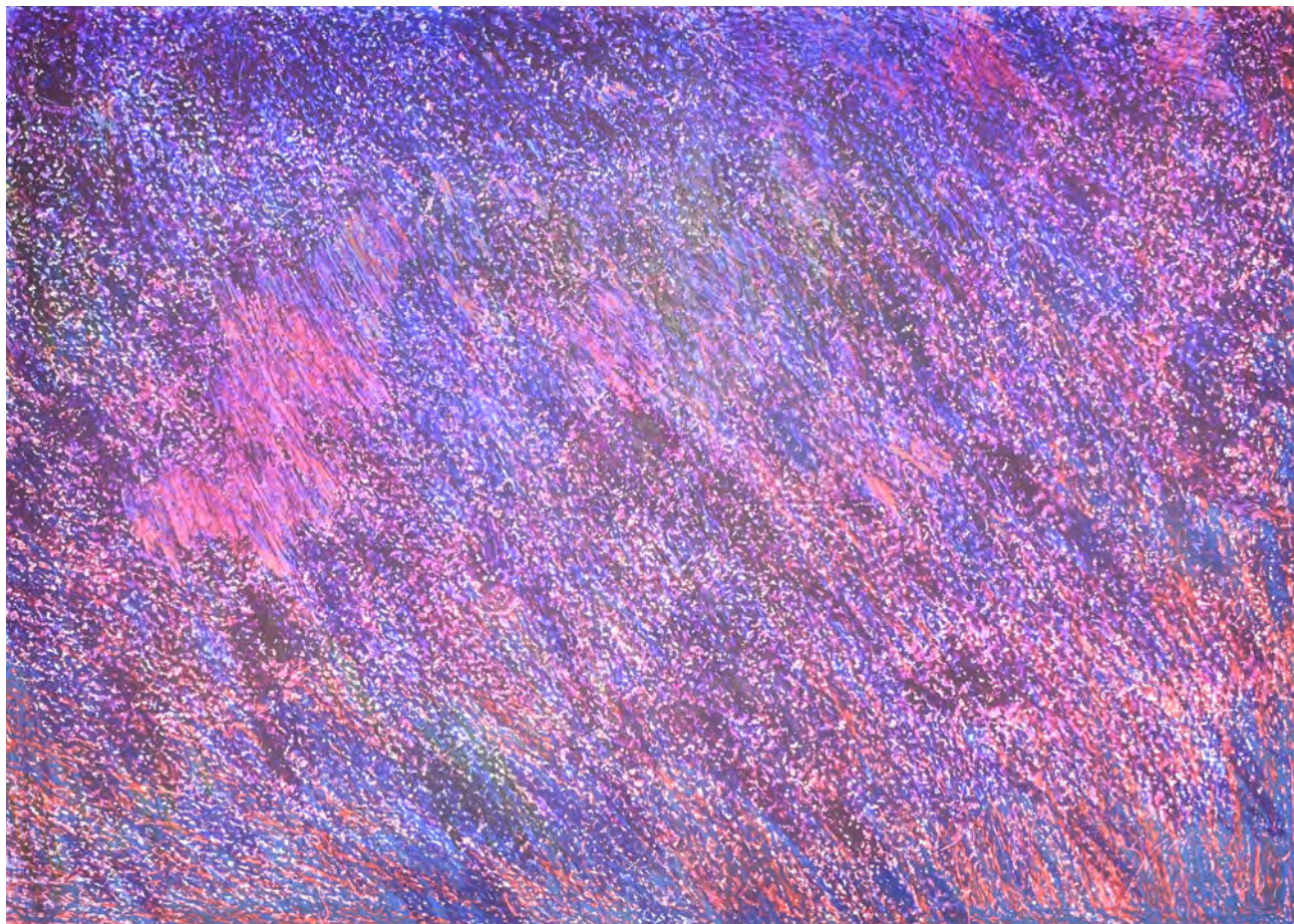
(クーピーペンシル)



# NISHIYAUCHI AKIRA (34)

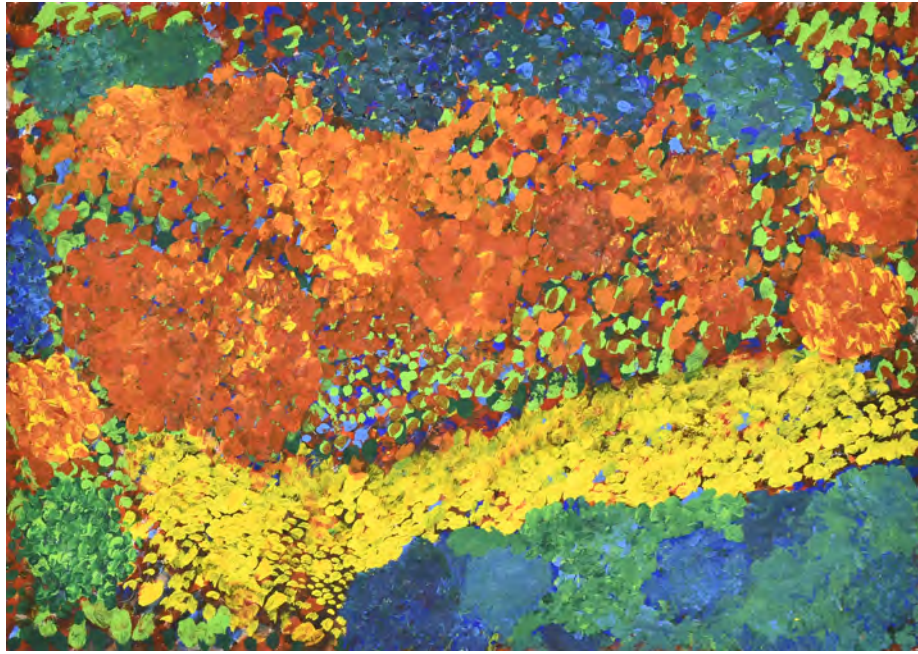
西谷内 章 / クピド・フェア

炎のゆらぎのような色の重なり、トントんと、跳ねるような筆づかい。色とりどりのクレヨンや絵の具で描かれる世界は、それ自体がまるで生きているようだ。眺めていると、なんだか力がみなぎってくる。(HARUKI)



(クレヨン)





コウヨウ (水彩絵の具)



(水彩絵の具)



パイナップル (水彩絵の具)



# MAKINO AOI (35)

牧野 葵 / 空知の風

風流を感じさせるような作品です。白が印象的に使われていてデザイン性の高さを感じます。こういったデザインの便箋などがあったら欲しいなと思いました。ぜひ春夏秋冬で作品を見てみたいと思いました。(KANEHIRA)



(絵の具・自作消しゴムスタンプ)



## NINJIN (36)

合同作品 / にんじん

ちぎり絵によって創られたひまわりが枝の額縁の中で真っ直ぐに咲いている。並んだ二作品の異なる色使いを比較するのも興味深い。(ASANOME)



(折り紙・毛糸・枝)

## YANASE NORIHUMI (37)

柳瀬 典史 / こくわの里

ぱっちり開いた青い目と白いぶち模様がかわいらしいキリンだ。とぼけたような、驚いたような表情が一瞬の動きを切り取ったように見える。ふとした瞬間に長いまつ毛が瞬きをして、そのままどこかへ行ってしまいそうだ。(NAKAJIMA)



(サインペン・色鉛筆)

# OKAMOTO AI (38)

岡本 愛 / クピド・フェア

色を塗った上に、新聞紙や折り紙を貼り付け、花や魚を表現している。暗闇に花卉が舞っている、儚さを感じる作品とは対照的に、荒々しい海をキラキラと鱗を煌めかせながら泳ぐ、サンマの力強さを感じる作品もあり、ちぎり絵を楽しんでいるように感じた。(SASAKI)



さくら (新聞紙・水彩絵の具)



さんま (クレヨン・ソリッドマーカー・折り紙)



# HOSOKAWA TOSHIAKI (39)

細川 敏明 / 福祉村

画面の左側には数字を、右側には星を配置する構成が特徴的だ。よく見ると描かれた星はそれぞれ色が違い、星1つ1つへの表現のこだわりが伝わる。画面全体を埋め尽くすカラフルな数字や星は、見る人をファンタジーの世界へ誘うかのようだ。(FUJIMOTO)



(色鉛筆)

# SUZUKI AKIO (40)

鈴木 明夫 / 清丘園

花や人など全てが複数の色で塗り重ねられて、人の洋服の青とオレンジの色の重なりが、ホログラムのようで綺麗だなと感じました。奥の建物が他の構造物と比べて、あっさり描かれているのが印象的でした。(KANEHIRA)



(サインペン)

# WARASHI (41)

童子 / サポートステーション・ステップ岩見沢

色づかいが綺麗でとてもカラフルな作品からは、作者が色塗りを楽しむ様子が感じられる。また着物の柄や、動物の顔のパーツや表情など細部にまでこだわっており、鑑賞者にも情熱が伝わるパワフルな作品をつくり出す。  
(SAWADA)



(サインペン・クレヨン)





(サインペン・クレヨン)



(サインペン・クレヨン)



(色鉛筆)

発行日 2019年11月1日

発行 いわみざわハート&アート実行委員会（岩見沢市委託事業）

〒068-0827 北海道岩見沢市春日町2丁目2番22号

電話及びFAX：0126-20-1521

E-mail：ssstepiwamizawa@bz04.plala.or.jp

編集：いわみざわハート&アート実行委員会（岩見沢あかり家、岩見沢光明舎、  
岩見沢清丘園、クピド・フェア、クローバー、空知の風、北海道光生会、  
北海道社会福祉事業団福祉村、麦の芽会）

執筆：松野 哲、村林 太郎、山田 努、

笹木 杏須加、澤田 京香、春木 舞香、兼平 瞳、中島 瑞季、

浅野目 和菜、白谷 愛理沙、長井 千佳、藤本 悠平

撮影・デザイン：岩見沢あかり家





